

地区名：長崎県 ^{うんぜん}雲仙市 ^{うんぜんせいぶ}雲仙西部地区（H19年度認定）
事業主体：雲仙市担い手育成総合支援協議会
事業内容：助成対象者 6経営体
事業費：23,690千円（国費：7,234千円）

【担い手の育成・確保及び農地の利用集積の促進】

1 地区の概要

当地区は長崎県南東部島原半島の北西部に位置し、面積206 km²、普賢岳(1,458m)を中心とする雲仙山系とそれに連なる緩やかな丘陵地帯及び海岸沿いに広がる平野部からなっている。

その立地条件を生かして水稻を主体に畜産と馬鈴薯等の複合経営が中心であるが、近年、施設園芸（イチゴ等）を中心とする複合経営が盛んになっている。

2 協議会の取組状況

現在、地区内は高齢化が進み後継者不足が課題となっており、認定農業者等担い手の経営の効率化、規模拡大を図り、担い手の育成・確保と農地の利用集積を推進することが急務であった。

このため、機械や施設等の導入を推進することにより担い手の経営の効率化、規模拡大を図るため、本事業に取り組むこととしたところであり、助成対象者にとっては、本事業の趣旨を理解し、本市が進める魅力ある農業経営の実現へ取り組んでいる農業者であり、現状から今後の展開方向、経営改善目標等その実効性を踏まえ選定したところである。

当地区では、認定農業者が404人から484人に、担い手への農地利用集積が948.9haから1,155.3haに増加する目標を掲げており、H21年7月末現在では、本事業の効果と市の施策の相乗効果により、認定農業者は583人と目標を上回り、農地利用集積についても1,456.6haと目標を上回っている。

3 助成対象者の取組事例

【安全・安心な農産物生産体制の確立】

助成対象者名：S氏
事業内容：施設園芸（キュウリ）ハウス 1棟 1,600m²
育苗ハウス 1棟 336m²
事業費：11,262千円（国費：2,362千円）

（1）取組前の経営状況

平成14年度に認定農業者の認定を受け、経営の効率化と規模拡大に取り組まれおり、本事業取組前は、水稻1.7ha、大麦1.1ha、玉ネギ0.5haのほか、昭和54年度に建設したビニールハウスにおいて16aのキュウリ栽培が実施されていた。

（2）取組概要

施設園芸として導入したキュウリ栽培では、ビニールハウスの老朽化で熱効率が悪化し、寒さによる病気の発生が多発してきたため、その対策として、保温性能の高い栽培施設への建て直しと高性能育苗施設の導入が必要であった。

このため、経営の安定化に向けて、新規作物（スナックエンドウ）の導入や家族経営協定の締結、環境への配慮（適正農業規範：GAPの導入）にも取り組む目標を掲げることにより、本事業の助成対象者として、二重カーテンを設置した保温効率の高い栽培施設と育苗施設を導入した。

これにより、施設の保温効果の改善が図られ、寒さによる病気の発生が抑制され、高品質のキュウリ生産及び新規作物としてのスナックエンドウ導入が実現し、経営の安定化及び効率化が図られている。

また、キュウリ生産の安定化及び新規作物導入が図られたことにより、家族経営協定の締結やGAP導入の取り組みも併せて開始されており、目標達成へ向けて着実な成果が上げられているところである。

○ 整備施設



キュウリハウス



育苗ハウス